



2026年 7月 4日
第230号

JR 東労組 Yokohama



JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申
第6号

「懲罰的な日勤およびヒューマンエラーに対する処分を直ちに止め、線路内落とし物拾得作業について、乗務員を含めた関係する全社員に統一した教育を求める申し入れ」4期日目(6/24)団体交渉を行う! ②

会社は「安全はトッププライオリティ」とは言うが… 「安全第一」とは言わない!!

4. 10月26日、伊東線熱海駅でホームと列車の隙間から行おうとした「線路内落とし物拾得作業」について、
会社の認識を明らかにすること。
【会社回答】列車等が在線中に作業を行わなければならない場合には、作業責任者が関係箇所(輸送指令等、信号扱所、運転士等)と相互に打ち合わせ、在線中の列車等が移動しない措置を講じて実施することとなる。

組 合	会 社
当日対応した運転士はライフサイクルで駅業務の時にマジックハンドについての教育があった。列車とホームの隙間には入れないことも教育されている。その認識はあるか。	そのように聞いている。 <u>在線中におけるマジックハンドの取り扱いは回答の通りで問題ないと認識している。</u>
車両の特情がある。伊豆急会社の車両は抵抗器が剥き出しで、感電リスクがあることを我々は問題視している。	<u>伊豆急会社に確認し、在線中に行っても問題無いと聞いている。</u>
熱海駅と伊東駅では教育されているのか。	年一回の教育カリキュラムに入っている。
この件で、一時的に在線する状態での線路内落とし物拾得作業を停止したのはなぜか。	<u>安全上問題ないか、伊豆急会社に確認したためである。</u>
つまり、この件が発覚するまで、何十年も会社として安全の担保や確証が無かったということか。	<u>改めて伊豆急会社に確認したということだ。</u>
伊豆急会社ではパンタグラフを下げた状態で作業していると聞いている。100%感電しないと言い切れるのか。	<u>100%感電しないとは言い切れない。</u>
100%感電しないと言い切れない以上、止めるべきだ。	<u>伊豆急会社の車両であり、確認をとっている。</u>
伊豆急会社の経営姿勢に学ぶべきではないか。	<u>繰り返しだが、伊豆急会社に確認している。触車事故防止手引きの取り扱いで問題無い。</u>
万が一感電等が発生したら他社に責任を転嫁すると言わんばかりの経営姿勢が明確に!	
JR東日本会社として、感電リスクはどう考えているのかと聞いている。	<u>伊豆急会社に確認し、判断している。</u>
感電して命を落としてからでは遅い。	<u>伊豆急会社に確認し、判断している。</u>
100%感電しないと言い切れないのであれば、安全第一としてパンタグラフを下げた後、線路内落とし物拾得作業を行うことを求める。	<u>伊豆急会社に聞き、在線中の作業ができると判断している。</u>
安全第一と言えないのか。	同じ回答の繰り返し! 言い切らない会社!
	<u>安全はトッププライオリティである。</u>

「100%感電しない」となぜ言い切れないのか?
感電等が発生しても責任を逃れるつもりなのか!?

次号③に続きます。